「読むこと」（文学的文章）学習指導案

第１学年国語科学習指導案

１　単元名

「少年の日の思い出」（新しい国語１　東京書籍）

２　単元について

本単元では、学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について「Ｃ　読むこと」の「エ　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」に重点を置いて指導する。文章の組立てや場面を捉えるだけでなく、語り手に注目した読みをしたり、なぜそのような構成になっているのかを考えたりすることで、文学的な文章の読みを深めることができる。

「少年の日の思い出」は、語り手である「私」のもとに「客」が訪れ思い出を語り始める第一場面と、「客（僕）」が語り手となって少年の頃に起こした出来事について語る第二場面（回想場面）から成り立っている不完全な額縁構造の文章である。しかし、前半部に対応する結末部分（大人の「私」と「客」による対話）は描かれていない。語り手に着目して読み進めていくなかで、第一場面がある意味や結末部がないことについて考えることによって、その文章構成がどのような効果を生み出しているかを考えることができる。文章の構成について自分が考えたことを他者と交流して新たな見方を習得するのに適した教材である。

指導にあたっては、主観的な考えに陥らないようにするために、第一場面の情景描写や「客」の言動、第二場面のチョウを潰す場面の表現など、本文の言葉を根拠として発表させる。また、文章構成の工夫や第三場面の必要性について自分の意見をもつことができるようにするために、学習課題を二項対立のものに設定して、取り組みやすくさせる。そして、全体で話し合う中で考えを深めるために、「第一場面は必要か」、「第三場面がないのはなぜか」など段階を追って発問を出して考えさせる。追発問を交えることによって多角的な視点から考えられるように工夫する。

３　単元の目標

・心情を表す表現や語りの効果について理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】

・第一場面と第二場面を結びつけて、表現の効果を考えながら作品を解釈することができる。【思考力、判断力、表現力等】

・場面や表現描写をもとに作品を読み深め、作品の構成や表現効果に着目し、語り手がどんな役割を担っているか自分なりの考えをもとうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・心情を表す表現や語りなど、読みの技術を増やすとともに、文脈上の意味を考えることを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。（１）ウ	・第一場面と第二場面、場面と表現描写を結びつけ、文章の構成や展開、表現の効果を考えながら作品を解釈している。Ｃ（１）エ	・場面や表現描写をもとに作品を読み深め、作品の構成や表現効果に着目し、語り手がどんな役割を担っているか自分なりの考えをもとうとしている。

５　単元の学習指導計画（全７時間）

（１）本文を通読した後、初読の感想や疑問を書く。（習得）　１時間
（２）第二場面から「僕」や「エーミール」の人物像を捉える。（習得）　２時間
（３）「僕」がチョウを潰した行動の意味を考える。（習得）　１時間
（４）第一場面を読み、「客」が「私」に語った理由を考える。（習得）　１時間
（５）第三場面で現在に戻る方が良いか、このままで良いかを考える。（習得）
１時間(本時)
（６）語り手の視点に注意して「ごんぎつね」を読み、構成の工夫を考える。（活用）
１時間

６　本時の学習指導

（１）　目標

・第三場面が必要かどうか考える活動を通して、第一場面と第二場面を結びつけ、文章全体の構成の工夫があることに気づき、その工夫について自分の言葉で表現することができる。

（２）　学習指導過程

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援
1　前時の復習をする。	・一般的な額縁構造は現在→過去→現在の構成だ。 ・第一場面は暗い描写が多く、第二場面につながるから必要だけど、第三場面はない方が良い。	・額縁構造の特徴について振り返らせる。 ・第一場面と第三場面の必要性について生徒の考えを振り返らせる。
2　学習課題を知る。		
【学習課題】　第三場面で「現在」に戻る方が良いか、このままで良いか？		
3　学習課題について考える。 （１）個人で考える。 （２）班で話し合う。	【戻る方が良い】 ・第一場面で「私」と「客」の会話があるのに、その続きがないと不自然だ。 ・語り終えた「客」の様子と「私」の反応がどうだったのか分からない。 【このままで良い】 ・一度起きたことは、もう償いができないことを強調している。 ・もう二度とチョウを集めないという決意を示している。	・前時の最後にノートに書いた考えを確認するように指示する。 ・意見を述べる際は、主観的な考えではなく、本文を根拠とするように指示する。
（３）全体で考えを交流して深める。	・第一場面は大人になっても当時の後悔が残っていることを示すために必要。 ・読者に続きの場面を想像させることで、読み方によって捉え方が異なることを感じさせるため。 ・第三場面は和やかな会話が続いていくと思う。 ・闇の中語り終えても苦しむ「客」の姿で終わる。	・「第一場面は必要なのか」と追発問して考えさせる。 ・第三場面がないのはなぜかを考えさせる。 ・もし第三場面があったらどう続くか、文章を踏まえて想像させる。
5　学習課題について再度考える。	・作品の構成を工夫することで読者に対して与える印象が異なる。	
6　本時の学習を振り返る。	・額縁構造で最後に現在に戻ってくる文章を読んでみたい。	・授業全体を通して考えたことをノートに書かせる。

（３）　評価

・第一場面と第二場面の構成が不完全な額縁構造であることに気づき、その効果について自分の考えをもつことができたか。（ノート）